

## 岡山大学文明動態学研究所第1回特別展

### 津島から世界へ、世界から津島へ

#### 開催概要

会期 2023（令和5）年2月10日（金）～3月19日（日）  
開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）  
休館日 毎週月曜日  
会場 岡山シティミュージアム 4階企画展示室  
岡山市北区駅元町15-1  
主催 岡山大学文明動態学研究所、岡山シティミュージアム  
協力 BIZEN 中南米美術館、倉敷考古館  
後援 駐日グアテマラ共和国大使館、山陽新聞社  
料金 入場無料  
問い合わせ先 岡山大学文明動態学研究所

#### 開催趣旨

岡山大学文明動態学研究所は、過去の探求と地域への着目から得られた新たな知で、持続可能な社会の構築を目指します。

本特別展は2部構成で、第1部では本研究所が拠点とする「津島」という小さな地域の歴史を深く掘り下げます。対して第2部では津島キャンパスで行われている「世界」を舞台としたさまざまな研究の一端を紹介します。文明動態学研究所を通じ、津島の知は世界へと羽ばたき、世界の知は津島へと集積されるのです。

第1部では、「津島」という地名が成立する遙か以前、岡山平野が形づくられ始めたころからの歴史を説き起こします。展示の主体をなす津島岡大遺跡では、縄文時代後期（約4000年前）の集落や、弥生時代開始期（約2800年前）の水田跡などが発掘されており、人間の暮らしを遺跡・遺物・周辺環境から探ることができる貴重な成果が得られています。また明治時代に設置された旧陸軍第十七師団駐屯地の跡も残り、現在の津島と岡山の地の成り立ちを考えるうえで欠くことができない遺跡です。

第2部では、中央アメリカに栄えた古代マヤ文明について紹介いたします。文明動態学研究所は重要な研究課題の一つとして「国境を超えた人類史学としての考古学」を掲げていますが、南北アメリカ大陸中間部のメソアメリカ、特に古代マヤ文明はその主要な研究フィールドとなっています。文明の起源から広域における文化の交錯、文明の発達とスペインによる征服を経て、現在を生きるマヤの人々まで、BIZEN 中南米美術館の協力による美しい展示品と共に、その概要を紹介いたします。

## 関連事業

写真展：カラー写真でみる 1952 年の岡山の街・人びと

—J・ホールのいたミシガン大学日本研究所岡山分室の遺産—

記念講演会 3/19（日）

公開講座 2/12（日）、2/26（日）、3/11（土）

## 展示内容

導入 ご挨拶／展示会の主旨

### 第1部 研究の拠点、津島を知る

津島の地名の由来

津島のなりたち

定住生活の開始

縄文時代の生活様式

生活スタイルの転換

旭川下流域における生産力の展開

首長墓の出現

古代の土地開発と条里

源平の争乱と福輪寺縄手

近世の津島

陸軍第十七師団の創設

ある陸軍軍人の半生

兵どもが夢のあと—津島にのこる戦争の証

### 第2部 現代に生きるマヤ、侵略を乗り越えて

古典期の隆盛

マヤ文字を読む

メソアメリカとマヤ

テオティワカン

現代を生きるマヤ

エピローグ 世界とつながる津島

## 主要展示資料所蔵先

第1部 岡山大学・倉敷考古館・岡山県古代吉備文化財センター・岡山市・備前市

第2部 岡山大学・BIZEN 中南米美術館・本谷裕子氏

## 注目される展示品・初出展

津島で新たに発見された前方後円墳（新発見）

陸軍第十七師団造営時の古写真（初出展）